

プロジェクターを照明装置として活用。広がる表現の可能性



切れの良いスポットライトとして使用



木の葉のシルエット写真を使って、木漏れ日の演出



窓枠風の画像を投影し、赤い光で夕日が差し込む窓辺のイメージ

写真の為の照明機器はカメラの変遷と平行するように技術進化し大きく変化してきました。昔は電球であり、巨大な1 Kw、2 Kwという球を時に火傷しながら使っていました。その後瞬間光であるストロボが一般的となり、小さな消費電力で強烈な明るさが得られるため、今も写真撮影の現場では中心的機材です。その後、動画撮影との併用目的からLEDが一般的になり普及が進んでいる最中でしょう。

このようにテクノロジーとしての変化はどんどん進んできたのですが、どうしても太陽のような切れの良い、スッキリとした影を描ける光源は一般的になりませんでした。

シャープな影を作る切れの良い光源は、「後処理でメリハリを付けられる」という、デジタルフォトにあっては不要と考えられたのでしょうか、初期のダイナミックレンジの狭いデジカメにあわせるように、明暗比の小さい照明が望まれたのでしょうか。過去を懐かしむわけではありませんが、昨今は影は柔らかくコントラストのないフラットな写真が増えたと感じています。徐々にデジカメの進化によって再現できる明暗比も広くなり、太陽下での高い明暗比照明での撮影も可能となってきたのにです。太陽の作り出すスッキリとした陰影は誰しもが美しいと感じます。しかし、一般の照明器具で再現はとても難しいのも事実です。これをスタジオで再現できたら素晴らしいのにと、以前には今では懐かしいスライドプロジェクターを太陽に見立て撮影し、好結果を得たことを思い出します。ならば、現在のプロジェクターを照明装置として使えば、投影する映像をPCでコントロールすれば、自由にイメージが作れるのではと取り組んだ結果を紹介します。

PCにLED光源の小型液晶プロジェクターを接続し、メインの照明装置とし、補助光はストロボを使ったハイブリッド照明です。現実にはなかなか使いこなしが難しいのですが、作例にあるように他の方法では表現できないような、光の質と画像投影によるバリエーションが可能となりました。

仕上がりから何気ない窓辺や屋外のテラスでは普通によくあるシーンと感じることは、この方法の有効性の証と思います。

光を操るといふ撮影者としてのスキルを高める作業は、専門職として今後もチャレンジを続けてゆこうと思います。

Koyama



ニューラルフィルター加工後

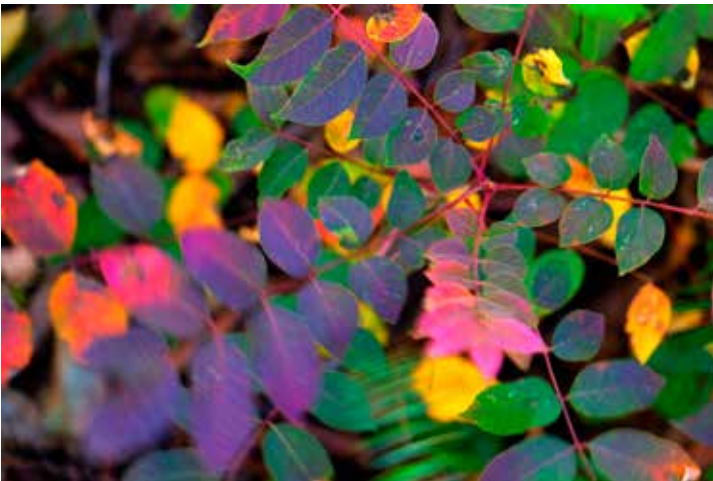


オリジナル

これも「写真」なのだろうか？

定番アプリ Adobe Photoshop2022 には上のようなフィルターが加わりました。基本的には2枚の写真を合成しているのですが、まるでアイビスクエアの回廊が苔むしたように。一枚の映像として魅力的な事には違いないのですが、写真表現のひとつと言われれば大いに困惑します。これもデジタル技術進化の方向のひとつなので、暫くは遊べそうです。

Kusuda



今年、秋は無かったと思うくらい夏からの急激な冷え込みで、いきなりの冬を体感た。・・・体に堪えた。今ゆっくりと秋を感じつつあるこの時期には、今年の紅葉はどうかと気になる。普段目にする事のない、この時期だけの植物の変身なので楽しみ。その年によって鮮やかさが違ったり、枯れてしまったり、時には驚くほど巧みな色を見せてくれる。紅葉が近頃のカメラの鮮やかモードと合わさった時、意外なマッチングが生まれ、めくるめく色彩にワクワク。

Morita



倉敷市真備町の「パンポルト」様よりピザの撮影をご依頼いただきました。パンポルト様は3年前の豪雨で工場兼店舗・自宅が浸水し全壊する被害にあいましたが、逆境をはね返して同年10月には仮店舗で復活され

ました。真備の住民やボランティアに勇気を与えてくれる存在です。この度ご自慢のピザを冷凍自販機により、販売することになり撮影依頼を頂戴いたしました。細心の注意を払い質感を損なわないように配慮いたしました。

パンポルトさん頑張れ!! また食べに行きます。ご依頼ありがとうございました。

Mizuko



夏が終わったかと思えば急に冷え込み、秋がなくなってしまうような日々が続きました。そんなある日、撮影の帰りに高梁川の河川敷一面にオギ(ススキの仲間)の穂が風に揺れており、車にはタイミングよくドローンを載せていたため急いで離陸、なんとか日没に間に合うことができました。ベストポイントは車で侵入出来ない位置だったので、自分の足では到底間に合わなかったでしょう。自由に空間を移動出来るドローンだからこそ、メリットを強く感じた瞬間でした。